

(6) 鳥類の外部計測法

茂田良光

1) 部位の名称

鳥類の主要部位の名称を図 2-1-9 および図 2-1-10 に示す。

2) 外部計測法

鳥類の外部計測は機能形態や生理生態学的研究の他、種または亜種を同定したり、性別や年令を識別するのにも役立つ。鳥類の各部の測定には、基本的な測定部位ですら、それぞれいくつかの方法があり、一定の方法に統一することは不可能である。ここでは鳥類標識者（バンダー）により、よく用いられる測定方法を紹介し、参考に供することとしたい（茂田（1986）より抜粋）。

生きた鳥を保持する基本的な方法は、翼を閉じた状態で図2-1-11のように左手（右ききのとき）の人差指と中指の間で鳥の頸部を軽くはさみ、残りの3本の指と掌で鳥体を保持するのが、鳥にも保持者にとっても安全でもっともよい持ち方である。この際、薬指と小指の間に鳥の両脚をはさむと鳥が脚を動かすのを防ぐことができる。片手で保持できない大型の鳥では、測定者と保持者が別の方がやりやすい。

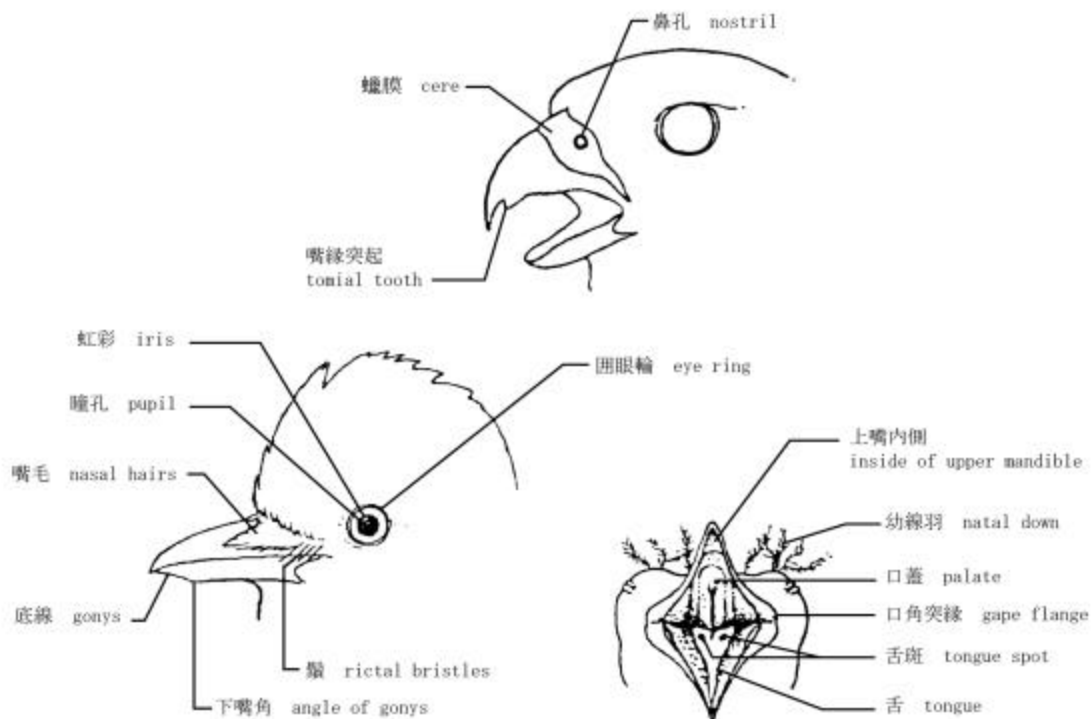
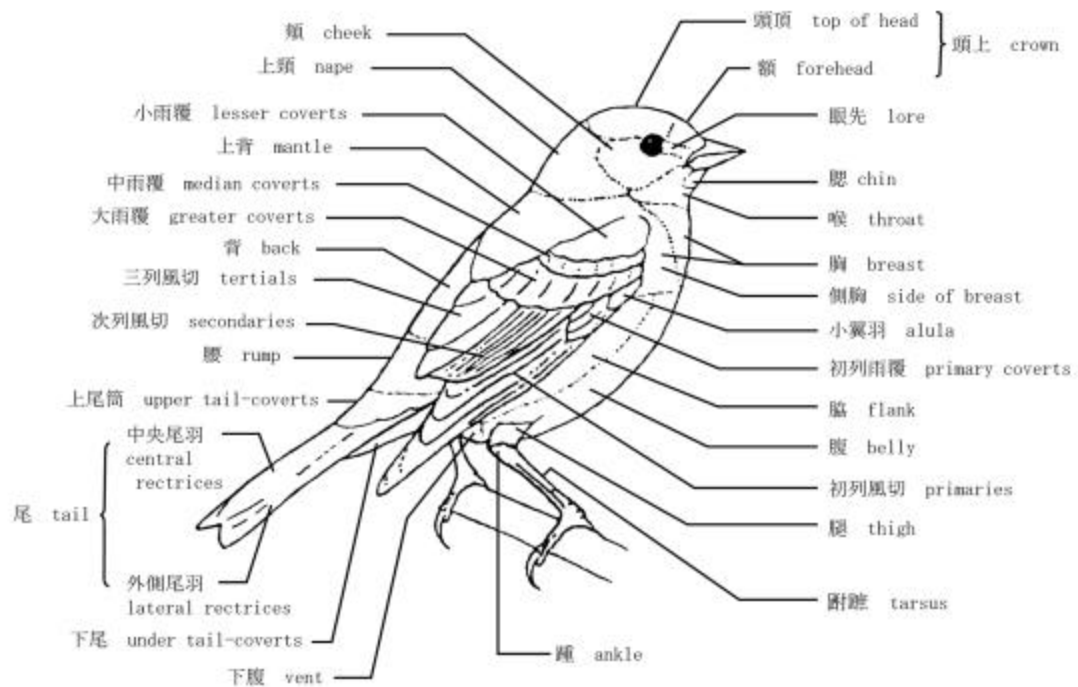


圖 2-1-9 鳥類の主要部位の名称 (その1)